

週刊 オールアイ



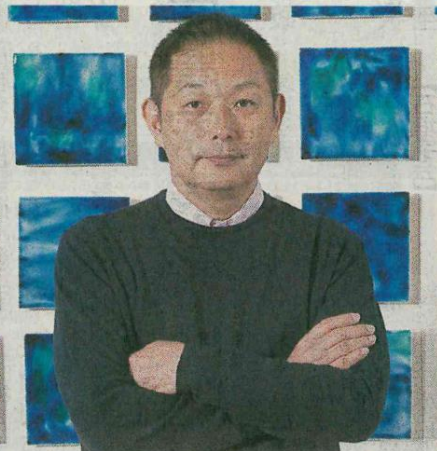
▲ 85 ▼

陶板作品が国有財産に

「石垣島を世界に発信できる」

名蔵にある「石垣焼窯元」当主の金子晴彦さん(54)が、焼物の技法を取り入れ創作したモダンアート作品「ハッピーブルーウォール」が、このほど「日本の美術品として国有財産」になった。7月21日、外務省から直接本人に連絡があった。金子さんは「大変名誉なことだ」と驚いている。石垣島を世界に発信できることがうれしい。日本人としての誇りを持ち、文化を通して

海外の皆さんと交流したい」と喜びを語る。ハッピーブルーは、石垣焼の特徴である透明のガラスに鉱石から発色した海の色を基調に、焼物の技法油滴天目を生かした約20枚四方の陶板を横1列に28枚を4列並べて組み合わせた



石垣焼窯元当主
金子晴彦さん(54)

モダンアート。作品は現在、リオネル・ランスの日本領事館事務所に展示中で、その後、領事館で永久保存されることが決まっている。日本の注目すべきアーティストに選ばれる

2015年に金子さんは、歴代フランス大統領が後援するフランス国立美術協会の美術展「Salon de la SNBA 2015」のインスタレーション部門に今作を申請、日本からの注目すべきアーティスト3人に選ばれた。インスタレーション部門で、陶板作品が選ばれ展示されるのはフランス国立美術協会始めて以来の快挙だった。同展を主催するソシエテ・ナショナル・デ・ボザール団体は、フランス美術史を作り守り上げた歴史ある5団体の一つで、152年の歴史を持つ。日本を代表する作家では児島虎次郎、横山大観、黒田清輝、藤田嗣治らが所属し、ヨーロッパ美術界の登竜門として出展していた。現在、日本人では1975年にフランス大統領



パリ日本文化会館での展示＝金子晴彦さん提供

賞や2014年にフランス政府の芸術文化勲章を受賞した、名誉副理事でもある赤木曠児郎氏などが所属している団体。厳格な審査が行われることで有名で、世界トップレベルを保っていることで知られる。

1999年、石垣焼窯元を開設

金子さんは19歳のころから「よろん焼窯元」で父・金子喜八郎の下で修行。喜八郎(陶芸家名)は写真家でもあり、リアリズムの大家とも言われる土門拳の弟子だった。金子さんは99年に石垣島に移り、石垣市名蔵で石垣焼窯元を開設。2010年、世界遺産・日光東照宮で展示会を開く。12年には、沖縄県から優秀技能者賞(沖縄県の名工)を授与された。同年、フランス・ルーブルで開かれた国際文化遺産展覧会(11月8～11日)に「燻菱琥珀天目」(碧海木葉天目)を出展、高い評価を得た。13年には期間中3万人以上が来場するフランスのアート・クラフト展覧会に、ガラスと陶器と加賀時絵のコラボ作品を出展。15年には、アルベール2世大公即位10周年記念の第9回モナコ・日本芸術祭2015に参加した。また、フランス・マルセイユ市展示館で個展を開催、同年7月には、ヨーロッパに進出して5年目で、初めてイギリスで展示会に出展するなど活躍している。